



2015年度 ブイグ事業概要

ブイグ・コンストラクション

ブイグ・イモビリエ

コラス

テー・エフ・アン

ブイグ・テレコム

BOUYGUES

未来の構築こそは、私たちの最高の冒険

目次

- 02 **今日のブイグ**
- 09 **グループ要約データ**
- 12 **建設関連事業**
ブイグ・コンストラクション
〔建設とサービスの総合力と地域アプローチ〕
ブイグ・イモビリエ
〔不動産開発の国内リーダー〕
コラス
〔交通インフラのワールドリーダー〕
- 24 **メディア**
テー・エフ・アン
〔仏民放テレビ界のトップグループ〕
- 30 **通信**
ブイグ・テレコム
〔顧客のデジタルライフ支援企業〕
- 36 **アルストム**

編集：ブイググループ広報部 発行：2016年3月 翻訳：小川隆久
デザイン&制作：TERRE DE SIENNE

印刷：ヴァール＝ドワーズ県所在PDI印刷所（PEFC森林認証とISO14001を受け
Imprim'vert®ラベル取得）長期管理森林から産出された紙を使用

印刷部数は必要分のみ完全に限定していますので、この冊子はなくさないように
してください。ブイグはEcofolioにエコ協力を金を出しています。

関連参考資料は、2016年3月17日より、ブイグのウェブサイト
（www.bouygues.com）とイントラネット（ByLink）で閲覧できます。

表紙：バンコクの「MahaNakhon」タワー（ブイグ・コンストラクション）、リヨンのプラスエネ
ルギー型「Hikari」（ブイグ・イモビリエ）、ソーラーロード「Wattway」（コラス）、ジャーナリ
ストAudrey Crespo-Mara氏（テー・エフ・アン）、ショッピングセンター「ヴェリジー」の店舗
（ブイグ・テレコム）。写真クレジット：S. Arbour (p. 20)、J.-F. Baumard/Fab/TF1 (p. 29)、
V. Bauza (表紙、p. 6)、J. Bertrand (表紙、p. 14, 20)、L. Blossier (p. 11, 19)、Y. Chanoit
(p. 19)、C. Charzat/TF1 (p. 24, 29)、コラス写真ライブラリー (p. 17)、F. Darmigny (表紙)、
A. Da Silva/Graphix-Images (p. 18, 35)、F. Deguent (表紙)、H. Douris (p. 20)、Drone
Aero Services (p. 20)、A. Février (p. 4, 12)、E. Fradin (p. 35)、N. Gouhier (p. 8)、
P. Guignard/Air-Images (p. 16)、Ibo/Sipa (p. 26)、N. Imre/Graphix-Images (p. 36)、
M. Lafontan (表紙、p. 30)、S. Lavoué (p. 1)、E. Richardson – Capa Pictures / アルストム
(p. 37)、P. Le Roux (p. 28)、É. Matheron-Balay (p. 32)、J.-P. Mesguen (p. 20)、
P. Perrin/Zoko Productions (p. 8)、Droits réservés (p. 8、写真n°1)、L. Samain (p. 6, 8)、
T. Shimmura (p. 15)、ブイグ・テレコム (p. 8, 34, 35)、TM®Rugby World Cup Limited
2008®AFP (p. 29)、L. Zylberman/Graphix-Images (p. 2, 5, 7)。アーキテクト：Agence
Nicolas Michel et Associés - Atelier 234 – Wilmotte et Associés (p. 2)、Architecture
Studio (p. 20)、CRB Architectes (表紙、p. 6)、Hamonc + Masson & Associés / Comte
Vollenweider (p. 17)、Jean de Gastines (p. 19)、Kengo Kuma and Associates (表紙、
p. 6)、Nicolas Maugery / Yad Initiative (p. 8)、Ole Scheeren (表紙、p. 12)、Renzo Piano
Building Workshop (p. 11)、坂茂 (p. 19)、Valode & Pistre architectes (p. 18)。



Agissez pour
le recyclage des
papiers avec
Bouygues SA
et Ecofolio.



Certifié PEFC
Ce produit est issu
de forêts gérées
durablement et de
sources contrôlées.
10-31-1174 pefc-france.org



マルタン・ブイグのメッセージ

フランスでは、当年度も厳しい経済環境下で熾烈な競争が繰り広げられました。そんな中において、ブイググループは転換戦略を成功させ、全体的に良好な営業成績を残しました。

まず、建設関連事業では優れた適応力を示しました。国内市場の縮小に対処するため、国際舞台で活発なビジネス展開を進めたのです。この結果、ブイグ・コンストラクションとコラスの国外受注残比率は、前年度の53%から59%に上昇しました。

次に、テー・エフ・アンは業界における主導的地位を強化しました。このメディアグループは、非常に競争が激しいテレビ界で常に高視聴率を維持してきました。さらに、ブイグ・テレコムは有望な成果を生みました。モバイル分野で躍進力を取り戻し、固定分野でも成長を維持することができたのです。

ブイググループは2015年度も、独自のイノベーション能力を発揮しました。既存の市場だけでなく新マーケットセグメントにおいても、斬新な製品とサービスに向けて活動範囲を拡大してきました。たとえば第1に、フランス国内におけるエコタウン整備の大型案件をいくつも受注しました。第2に、ブイグ・イモビリエが、フレキシブルで和やかな共同勤務スペース「Nextdoor」を打ち出しました。

第3に、テー・エフ・アンが、番組制作会社Newenの主要株主になり、コンテンツ分野での地位を強化しました。第4に、当メディアグループは一方で、ニュース専門放送局LCIを無料地上デジタルテレビ放送局に移行させる認可を、CSA（視聴覚高等評議会）から得ました。第5に、ブイグ・テレコムが、自社モバイル顧客の51%を4Gユーザーにして、4Gにおける主導的地位を確立しました。

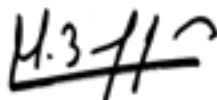
ブイググループは今年度、採算性を向上させることができました。テー・エフ・アンとブイグ・テレコムの業況回復と、建設関連事業の安定した収益力に支えられて、調整前営業利益率が前年度を上回る2.9%になりました。また、グループの財務体質も強化されました。2015年12月末の正味金融債務は、前年同月末より6億5500万ユーロ少ない約26億ユーロに留まったのです。

グループ傘下のアルストムは目下、自らが主導的地位を占める鉄道輸送分野にあらためて注力しています。アルストムの自社株買いの結果として、ブイグ本社は2016年1月28日現在、同社株式の28.3%を保有しています（2015年12月31日時点では29.2%）。しかし、ブイグはフランス政府に対して、約20ヶ月間の期限付きで、20%分のアルストム株を貸し出しました。これは、ゼネラル・エレクトリックへのエネルギー事業譲渡を可能にする目的で、2014年6月22日に結んだ協定に基づく措置です。

ブイググループは2016年度も、収益性の改善を追求していくことになります。まず、建設関連事業では引き続き、ターゲットを絞った国際展開を推進しながら、サービス内容の拡充を図り、一層の採算性向上を実現していくはずで、次に、テー・エフ・アンは新しい経営陣のもとで今後も発展を続けていくでしょう。さらに、ブイグ・テレコムは、“standalone”（独立独歩）の戦略を採る中で、売上高と利益の長期的拡大の復活を目指していきます。

最後に、献身的かつ意欲的なスタッフのお仕事ぶりとお客様や株主の皆様のご信頼に対して厚く御礼を申し上げる次第です。

2016年2月24日





📍 ブイグ・コンストラクションが2015年に引き渡したパリの国防省

今日のブイグ **ブイグの優位性**

強力な企業文化を誇りつつ、現在100ヶ国以上に進出しているブイグは、その揺るぎない優越性を武器にして、長期的成長が見込める分野で発展を続けています。

ビジネス戦略

12万人の従業員を擁するブイグは、多角的にビジネス展開する企業グループです。建設関連、メディア、通信の諸事業は、建設インフラからデジタル利用に至るまで、できるだけ多くのカスタマーに、革新的なソリューションをお届けすることを目指しています。

ブイグは全スタッフのノウハウに依拠しつつ、いずれの活動領域においても事業付加価値を高めています。建設関連分野では、建築・土木・エネルギー・交通インフラの世界的企業としての地位を強化し、メディア分野では国内におけるリーダーシップを維持し、通信分野ではデジタル利用の発展に寄与しています。いずれにしても、エンドユーザーや顧客のニーズに応えることがブイグの使命なのです。

安定した株主

マルタン・ブイグとオリヴィエ・ブイグが保有するSCDMと従業員が、ブイグの2大安定株主になっています。

2015年12月31日現在、

- 従業員株主の出資比率と議決権比率はそれぞれ21.4%と28.6%、従業員株主数は6万人近く（CAC40種銘柄中トップ）
- SCDMの出資比率と議決権比率はそれぞれ20.4%と27.9%

会社の資本構成に大きな影響力を持つ安定株主がいるおかげで、ブイグは長期的な戦略ビジョンを実現することが可能になっているのです。

強力な企業文化

ブイグの企業文化の特色は、事業プロジェクト管理に関する優れたノウハウを持っていることです。各スタッフに責任意識を持たせるブイグのマネジメント方式は、5つの傘下企業で共有されている「尊重」、「信頼」、「公平」の3大原則に依拠しています。

長期的成長が見込める分野に足場

現在、新たなインフラ需要や住宅需要が世界中で非常に大きくなっています。これは、パッシブハウスやプラスエネルギーハウスなどを含めた「持続可能な建設」や、資源の保全に対する顧客側のリクエストが高まっているためです。この点に関して、自他共に認める“一味違う”ノウハウを開発してきたブイグは競争優位を確保し、国際舞台で力強くビジネス展開することができています（2015年度のブイグ・コンストラクションとコラスの売上高の52%が国外で実現）。

また、フランス国内のメディアと通信分野では、テクノロジーやデジタル利用の急速な進展により、今後も市場の拡大が見込まれています。

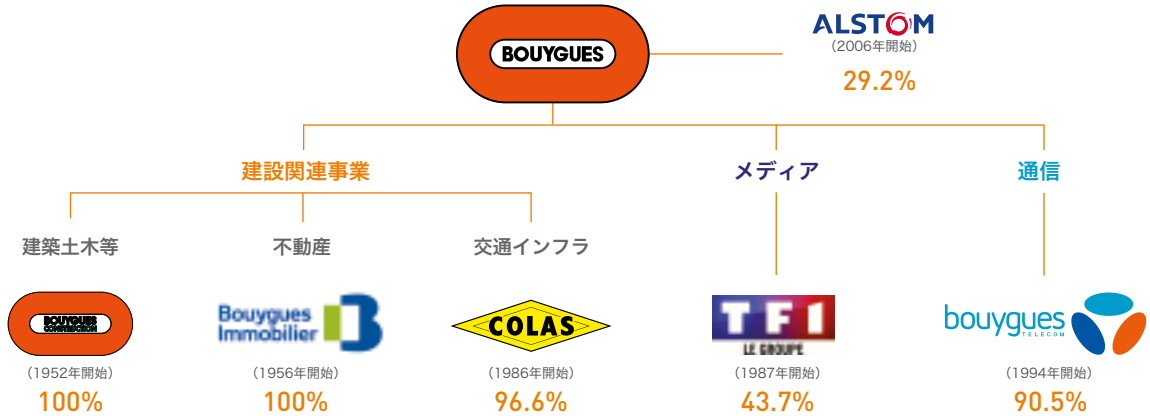
堅固な財務構造

ブイグは投資活動をうまくコントロールして、着実にキャッシュフローを生み出しています。このため、負債比率を低く抑えながら豊富な手元流動性を確保できています。

ブイグはこの優位性のおかげで株主に滞りなく配当を行い、2015年度には4.6%の平均リターンを実現しました。

組織とガバナンス

(2015年12月31日現在)



経営陣

(2015年12月31日現在)

ブイグ本社

マルタン・ブイグ
会長兼CEO

オリヴィエ・ブイグ
CEO代行

ジャン＝フランソワ・ギユマン
事務本部長

フィリップ・マリアン
グループCFO

ジャン＝クロード・トスティヴァン
シニアVP
(人事及び管理担当シニアVP)

5傘下企業

フィリップ・ボナーヴ
ブイグ・コンストラクション
会長兼CEO

フランソワ・ベルティエール
ブイグ・イモビリエ
会長兼CEO

エルヴェ・ルブック
コラス会長兼CEO

ノンス・パオリニ^(a)
テー・エフ・アン
会長兼CEO

オリヴィエ・ルサ
ブイグ・テレコム
会長兼CEO

取締役会

(2015年12月31日現在)

マルタン・ブイグ
会長兼CEO

オリヴィエ・ブイグ
CEO代行及び
SCDM常任代表

ミシェル・バルドゥ
従業員代表

フランソワ・ベルティエール
ブイグ・イモビリエ
会長兼CEO

ジャン＝ポール・シフレ
アムンディ・グループ
取締役会会長

ラファエル・デフレッセル
従業員代表

アンヌ＝マリー・イドラック^(b)
トゥールーズ・ブラニャック
空港監査役会会長

パトリック・クロン
アルストム会長兼CEO

エルヴェ・ルブック
コラス会長兼CEO

エルマン・ルパ・ドセシュヴァル^(b)
ヴェオリア事務本部長

コレット・ルヴィネール^(b)
キャップジェミニ
会長アドバイザー

サンドラ・ノンブレ
従業員株主代表

ノンス・パオリニ
テー・エフ・アン
会長兼CEO

ジャン・ペイルルヴァド^(b)
デグルーフ・ペーターカム・フランス銀行
取締役会会長

フワンソワ＝アンリ・ピノー^(b)
ケリング会長兼CEO

ローズ＝マリー・ヴァン・レルベルグ^(b)
パストツール研究所理事会会長

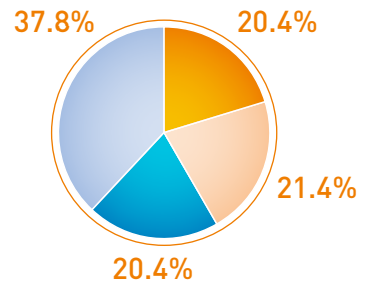
ミシェル・ヴィラン
従業員株主代表

^(b) 取締役会により
独立社外取締役に指定

グループ株主構成

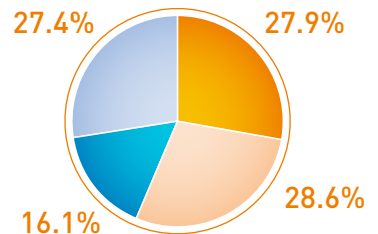
(2015年12月31日現在)

出資比率



発行済株式数 345,135,316

議決権比率



議決権数 489,224,737

- SCDM^(a)
- 従業員株主
- その他フランス人株主
- 外国人株主

^(a) SCDMはマルタン・ブイグとオリヴィエ・ブイグが管理下に置いている会社

^(a) 2016年2月19日付で、
ジル・ペリッソンがノンス・
パオリニに替わって就任



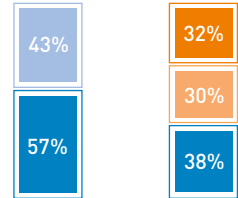
📷 奨励される内部昇進と社内モビリティ（写真はバンコクの現地法人Bouygues Thaiのスタッフたち）

スタッフ

(2015年12月31日現在)

スタッフ職位

フランス国外 フランス国内



- 管理・技術職
- 現場職人
- 管理職
- 事務・技術職等

社会・環境・福祉に関するコミットメント

スタッフの尊重と能力開花

スタッフの才能の表現と開発を促すような人間尊重の企業家ビジョンが、ブイググループにおけるマネジメントの土台になっています。

ブイググループは「尊重」、「信頼」、「公平」の原則を大事にする社員たちの協力を得て、高い水準の営業成績を達成しているのです。

チームスピリットの奨励と信頼醸成

従業員は採用されると速やかに大きな自由裁量権が与えられます。ブイググループでは、実際の仕事に一番詳しい現場の担当者に責任を持たせるようにしています。さらに、各人の能力を一層開発するために、国内外で多様な研修コースが用意されています。

従業員が主要株主になっているブイグにとっては、良好な労使関係とチームスピリットの維持が最優先課題です。このため、新しい勤務組織形態、職業生活の質に関わる環境整備、さらに各種の協働手段（横断的勤務グループ、社内ソーシャルネットワークなど）の効果を検証するさまざまな実験が行われています。

内部昇進と包括的報酬

社員の忠誠心を高め能力開花を促せるように、社内モビリティ（配置転換）と内部昇進制が重視されています。また、各スタッフの潜在能力、勤務成績、及びブイグ意識をしかるべく評価する賃金制度が採用されています。従業員に与えられる報酬には、社会保障補完、退職貯蓄制度、社会・文化活動といった優遇措置も付加されます。

ブイググループでは、国内外において従業員貯蓄奨励制度を設けています。2015年度は、「Bouygues Confiance 7」（ブイグ信頼7）と銘打った第三者割当増資が、6万8000人の従業員を対象に実施されました。

グループ従業員

2015年度従業員総数

12万254人

（うち国内6万7436人（全体の56%））

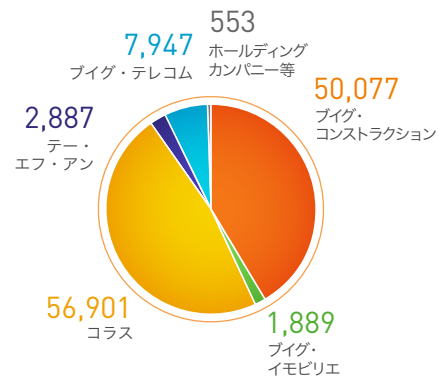
新規雇用

2015年度新規雇用者数

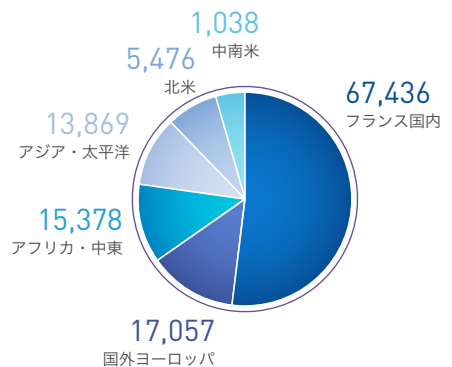
30万534人

（うち国内3952人）

事業部門別従業員数（人）



地域別従業員数（人）



絶対的優先事項としての保健衛生と安全

グループの建設関連各社においては、下請けや納入業者の協力も仰ぎながら、作業の危険防止措置や注意喚起運動を工事現場で大規模に展開しています。

また、労働災害をなくし、従業員の健康を保持するために、労働の苦痛緩和や薬物依存撲滅にも努めています。さらに、交通事故防止や社会心理问题に対してもしっかり取り組んでいます。

人材多様性の重視

豊かな創造力を育み、業績成績の向上につながる多様な人材活用は、ブイググループにとっては大きな切り札だと考えられます。ですからブイグでは、障害、出身、性別を問わない人事方針を堅持しています。この点、ブイグ・コンストラクションの子会社Bouygues Bâtiment International、テー・エフ・アン、及びブイグ・テレコムの子会社3企業は、AFNOR（フランス規格協会）の「Label Diversité」（人材多様性認証）を取得しています。

イノベーションの奨励

持続可能なビジネスパフォーマンスを達成するためには、イノベーションの管理システムを設けることが必要不可欠です。

オープンイノベーション推進

2015年度のブイグは、オープンイノベーションのアプローチに力を入れ、選別したスタートアップ企業に資金提供する仕組みを、各事業部門の中に設置することを奨励しました。こうしたシードファンド活動は、Bouygues Développementのバックアップも受けることになります。Bouygues Développementは、金融、法務、プロジェクト指導のノウハウを持つ新たな中央機関です。

イノベーション管理

本社レベルの「E-LAB」に加えて、傘下事業部門レベルでも、研究・開発・イノベーション組織が設けられています。後者については、たとえばソーラーロード「Wattway」の場合（p.19参照）のような、パートナーシップ方式も採られています。ブイグの担当スタッフたちは、「design thinking」（デザイン思考）のセミナーや、「Hackathon」（ハッカソン）^(a)といった協働活動を行う中で、革新的なソリューションの探求に貢献しています。ブイグには、持続可能な建設、材料工学、通信ネットワークなどの主要テーマに取り組む優れた研究拠点があるのです。

(a) ソフトウェア開発者たちが集まって協働するコンピューター・プログラミングのイベント

CSRパフォーマンス

5つのSRI指標^(a)

2015年度のブイグは、前年度に導入した3つのSRIインデックス（MSCI Global Sustainability、STOXX Global ESG Leaders、及びEuronext Vigeo Eurozone 120）に加えて、さらに2つのインデックス（Climate Disclosure Leadership Index (CDLI)、及びLow Carbon 100 Europe^(b)）を追加導入しました。

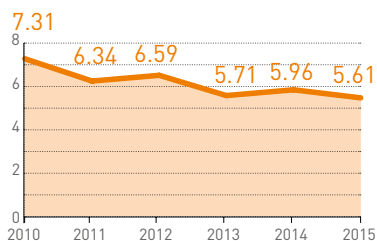
このことは、環境保護責任を踏まえた商慣行・事業プロセス・提供サービスの全ての面において、グループのCSR^(b)パフォーマンスが優れていることを如実に示すものです。

- (a) 「Socially Responsible Investing」（社会的責任投資）
- (b) 「Corporate Social Responsibility」（企業の社会的責任）

職場の安全

グループ内の強いコミットメント

グループ従業員の労働災害率^(a)
（データは国内外）



■ 度数率

職場の安全確保は極めて重要な課題です。労働災害度数率の近年の減少傾向は、2015年度に一層はっきりしました。これは、特にブイグ・コンストラクションとコラスが、工事現場や通勤途上の安全確保に積極的に努めてきたおかげです。

(a) 度数率 = 労災件数 x 100万 ÷ 延労働時間数

TF1

多様性を重視した番組作り

市民社会の多様性を番組にきちんと反映させ、ステレオタイプを排することは、多様性方針を堅持するTF1の誓い입니다。このため、番組の企画・制作を担当するスタッフ全員が、いかなる局面でも多様性を大事にすることを学ぶ研修を受けています。

📷 グループ全体の多様性方針の基軸になる共同参画





☑ COP21の開催中、「Trophées Solutions Climat」（気候ソリューション賞杯）の「Coup de cœur」（心のときめき）賞を獲得した、リヨンのプラスエネルギー型「Hikari」（ヒカリ）



☑ 2015年10月13日-15日、パリで初開催された「World Efficiency」展示会にブイグが参加

環境パフォーマンスの改善

2005年以降、ブイグは持続可能な発展に取り組んでおり、気候変動や資源減少の諸問題に対して様々な解決方法を提案しています。

気候変動への対処とエネルギー転換

ブイググループは不動産の再開発、プラスエネルギー型建物の建設、エコタウン建設、都市インフラのエネルギー効率改善策などに関するノウハウを持っており、このノウハウを生かしてエネルギー転換に寄与しています。当グループでは、最良の関連技術を自社ビルなどに採用して、自らのアプローチの有効性を証明しています。

建設関連のブイグ・コンストラクションとコラスは、工事現場のカーボンフットプリントを減らすために、エネルギー消費を低下させる措置を講じています。たとえば、コラスではトラックや現場作業車に専用の計測ツールを付けています。

循環型経済システムの推進

各種資材を生産・使用している建設関連事業では、革新的な戦略を展開しています。各プロジェクトにエコデザイン（環境配慮設計）を施して廃棄物の量を減らし、引いては、廃棄物の利用価値を高めているのです。グループ傘下のインフラ各社は、「Grand Paris」（グラン・パリ計画）の一環として、残土や残骸の最適処理を図る方策に積極的に関与しています。特にコラスでは、資材のリサイクルによって特に骨材の採掘を減らし、新たな採石場等のオープンを抑制しています。

また、ブイグ・テレコムは同業他社に先駆けて、中古スマートフォンの再生専門事業体Recommerce Solutionsの設立を推進しました。

グループの温室効果ガス排出

（データは国内外）

2015年度 CO₂換算
 **1576万9千トン**
 （2014年度は1684万5千トン）

COP21

ブイググループの取り組み

ブイグはCOP21の機会にさまざまな討論会に積極的に参加して、「低炭素」に関する70あまりに上るソリューションの参考例を紹介しました。それらは、ビル再開発、持続可能な建設、エコタウン、環境に優しい交通、及び都市機能向上の各分野に係るものです。

COP21開催中の「Galerie des Solutions」（解決ギャラリー）では、ブイググループの2つのプロジェクトが、「Trophée Solutions Climat」（気候ソリューション賞杯）^(a)の「Coup de cœur」（心のときめき）賞を受けました。すなわち、コラスが開発した世界初のソーラーロード「Wattway」と、リヨンのプラスエネルギー型「Hikari」（ヒカリ）の2つです。

(a) Ademe（環境エネルギー管理庁）、C3D（持続可能な開発指導者会）、金融機関Crédit Coopératif、Orée社、Solutions COP21、The Shift Project協会、及びWorld Efficiencyが、エコロジー・持続可能開発・エネルギー省の後援を受けて授与する賞杯

ステークホルダーとの 信頼関係の維持

グループの事業活動には複数のステークホルダー（利害関係者）が関わっているため、ブイグは彼らとの信頼関係の維持を図っています。

倫理原則の尊重

ブイグは業務行動に関して、厳格な倫理原則を守るように尽力しています。競争法規、汚職防止、財務情報、株式取引、利益相反の各点に関するコンプライアンス・プログラムが、2015年度もほぼ前年度と同様に実行されました。このプログラムは、ブイググループの倫理コードを補完し例証するものです。このテーマに関する必要情報は、グループ内で周知徹底されるようになっています。

また、ブイグ取締役会に設置された「倫理・CSR・メセナ委員会」が、行動規範や活動原則の規定に携わるとともに、それらがきちんと守られるように監督する役割も果たしています。しかるべく規定された行動規範や活動原則は、管理職や一般従業員の取るべき態度の基準になることが期待されているのです。

責任ある購入

ブイグは、仕入先、下請け、及びサービス提供会社の協力を得ながら、「責任ある購入」の方針を貫いています（右欄参照）。

連带的コミット

グループの各レベルにおいて、メセナ方針が堅持されています。具体的なメセナ活動としては、本社や各事業部門の専門組織を通じて実施されるだけでなく、事業進出した地域社会の「企業市民」活動として行われる場合もあります。

教育の分野では、フランシス・ブイグ企業財団が毎年、約60名の高校生に対して大学進学のための支援を与えています。2005年の当財団創立以来、合計660名の前途有望な高校生が金銭的な援助と、後援人（ブイグ従業員又は元奨学生）のバックアップを受けました。なお、この660名のうち222名は既に大学を卒業して社会人になっています。

責任ある購入

ビジネスパートナーに 向けた憲章

ブイググループは2015年度、CSR（企業の社会的責任）憲章の改訂を行い、次の2点を改めて明言しました。すなわち、①さまざまな社会問題リスクに対する、仕入先や下請先の姿勢に注意を払う自らの義務、及び、②ビジネスパートナー間の信頼関係と対話を維持かつ強化する意欲の2点です。

このCSR憲章は、仕入先と下請先に期待する事項を条文形式にまとめたもので、取引契約を結ぶ際には必ず添付することになっています。



追加情報

> www.bouygues.com

> Twitter : @GroupeBouygues

毎年パリに集まるフランシス・ブイグ企業財団奨学生と元奨学生



2015年度グループハイライト

SRIインデックスの充実

2015年度のブイグは、これまでの3つのSRI^(a)インデックス (MSCI Global Sustainability、STOXX Global ESG Leaders、及びEuronext Vigeo Eurozone 120)に加えて、さらに2つのインデックス (Climate Disclosure Leadership Index (CDLI) France – Benelux、及びLow Carbon 100 Europe[®] (Euronext))を追加導入しました。

60年間のプレゼンス

ブイグ・コンストラクションは60年前から香港に進出し、交通、レジャー、商業インフラ、大学、高級ホテル、公営住宅などを幅広く手掛けて、現地の人々の生活環境の改善に貢献してきました。

世界初のソーラーロード

コラスがINES^(b)と提携して企画推進しているソーラーロード「Wattway」は、道路上で太陽エネルギーを取り込んで電気を生む仕組みになっています (p.19も参照)。将来は、ソーラーロードで生み出される再生可能エネルギーが、公共照明、市街電車、住宅、オフィスなどでも利用されるようになるでしょう。

新規ユーザーの獲得

2015年度は、110万人の人々が、ブイグ・テレコムモバイル・固定サービスの新規利用者になりました。

98番組がランクイン

2015年度国内テレビ視聴率ベスト100のうち、上位98までをTF1局の番組が占めました^(c)。とりわけ、「ラグビーワールドカップ2015」の準々決勝 (ニューージーランド対フランス)の放送は1220万人、チャリティーコンサート「la soirée des Enfoirés」(アンフォワレのタベ)の放送も1140万人の視聴者を獲得しました。一方、2015年度視聴率ベスト100フィクションのうち、32までをTF1局の放送作品が占めました (p.24-p.29も参照)。

(a) 「Socially Responsible Investing」
(社会的責任投資)

(b) 「Institut National de l'Énergie Solaire」
(フランス国立太陽エネルギー研究所)

(c) データはMédiamétrieの調査



1. アジアでは、香港・珠海市 (シュカイシ)・澳門 (マカオ) を結ぶ海上橋の工事が、2016年の完成を目的に進行中 (ブイグ・コンストラクションが受注) 2. COP21開催中にル・ブルジェ会場で紹介された、ソーラーロード「Wattway」(コラスが開発)は世界中の道路に応用が可能 3. フレキシブルで和やかな共同勤務スペース「Nextdoor」(ブイグ・イモビリエが開発)が、2015年、オード＝セヌヌ県イシー＝レムリノーでスタート 4. TF1局の13時と20時のニュース番組が、2015年度視聴率ベスト100に55回登場 (Médiamétrie調査による) 5. ブイグ・テレコムがFTTH (光ファイバーを家庭へ)のサービスを開始

グループ要約データ

連結貸借対照表 (12月31日現在)

単位: 100万ユーロ

資産の部	2014	2015
有形及び無形固定資産	8,267	8,654
営業権 ^(a)	5,286	5,261
非流動金融資産 ^(b)	4,663	3,943
その他非流動資産	288	352
非流動資産合計	18,504	18,210
各種流動資産	12,199	11,784
現金預金等	4,144	3,785
金融商品 ^(c)	21	21
流動資産合計	16,364	15,590
売却見込み保有資産・事業 ^(d)		35
資産合計	34,868	33,835

純資産及び負債の部	2014	2015
自己資本	7,854	7,865
非支配株主持分	1,601	1,428
純資産合計	9,455	9,293
長期金融債務	5,850	5,305
非流動性引当金	2,305	2,160
その他非流動負債	153	97
非流動負債合計	8,308	7,562
短期金融債務	1,267	831
各種流動負債	15,574	15,918
短期銀行借入等	234	196
金融商品 ^(c)	30	35
流動負債合計	17,105	16,980
売却見込み保有事業の関連負債		
純資産及び負債合計	34,868	33,835
正味金融債務	3,216	2,561

- (a) 連結対象企業の営業権
 (b) 持分適用分を含む (付随する営業権込み)
 (c) フェアバリュー表示による債券ヘッジ分
 (d) 高速道路A28運営会社への出資分譲渡関連
 (e) Eurosport International株持分 (31%) の譲渡益と、
 残余保持分 (49%) 再評価益の合計3億1300万ユーロを含む
 (f) Cofirouteに対するコラス出資分の正味譲渡益2億5300万ユーロを含む
 (g) 譲渡益及び非経常要素の再処理分
 (h) Cofiroute株譲渡分 (コラス) の7億7000万ユーロと、
 Eurosport International株譲渡分 (31%) の2億5900万ユーロを含む
 (i) プイグ・テレコムによる700MHz周波数帯取得費4億6700万ユーロを含む
 (j) Eurosport International株譲渡分の4億9000万ユーロを含む

連結損益計算書

単位: 100万ユーロ

	2014	2015
売上高	33,138	32,428
調整前営業利益	888	941
その他営業収支	245 ^(a)	[273]
営業利益	1,133	668
金融費用	[311]	[275]
その他金融収支	10	6
支払税	[188]	[118]
持分法投資損益等	420 ^(f)	199
調整前当期純利益	1,064	480
非支配株主に帰属する 当期純利益	[257]	[77]
親会社に帰属する 連結当期純利益	807	403
例外的要素 ^(a) を除く当期純利益	492	489

連結キャッシュフロー計算書

単位: 100万ユーロ

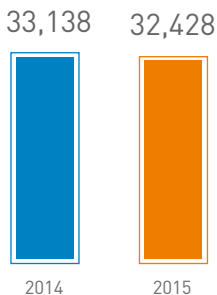
	2014	2015
営業キャッシュフロー		
グロスキャッシュフロー	2,258	2,067
支払税額	[319]	[194]
運転資金増減	8	203
A - 営業活動によるキャッシュフロー	1,947	2,076
投資キャッシュフロー		
正味事業投資	[1,362]	[1,890] ^(j)
その他投資関連	1,047 ^(h)	1,194 ^(j)
B - 投資活動によるキャッシュフロー	[315]	[696]
財務キャッシュフロー		
配当金支払	[198]	[737]
その他財務関連	[818]	[1,106]
C - 財務活動によるキャッシュフロー	[1,016]	[1,843]
D - 現金及び現金同等物に係わる換算差額	110	143
増減額 (A + B + C + D) 及び 非金銭的フロー	726	[321]
期首残高	3,184	3,910
期末残高	3,910	3,589

グループ2015年度キーデータ

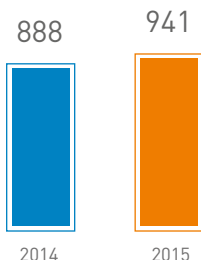
持分法適用会社であるアルストムは当期純利益のみに貢献している

(単位：100万ユーロ)

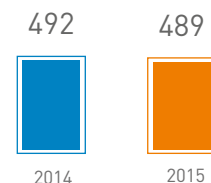
売上高



調整前営業利益



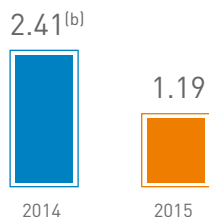
例外的要素(a) を除く当期純利益



(a) 譲渡益及び非経常要素の再処理分

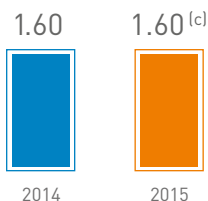
1株当たり利益(a)

(単位：ユーロ)

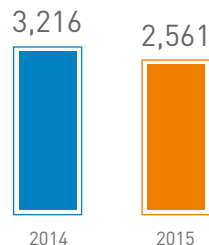


1株当たり配当

(単位：ユーロ)



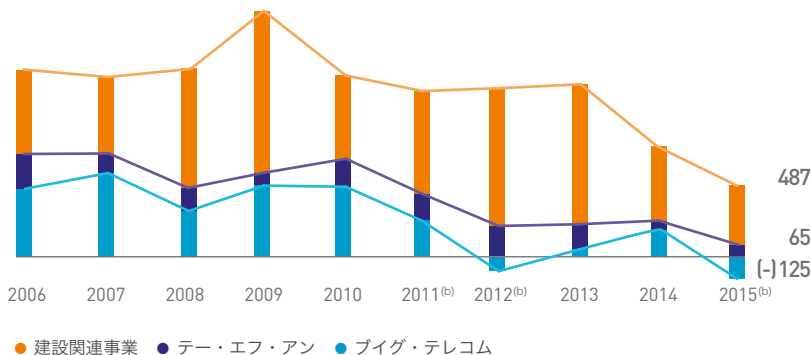
正味金融債務



(a) 特別損益分等を除いた連結当期純利益 (b) Cofirouteに対するコラス出資分の正味譲渡益2億4000万ユーロ、及び、Eurosport International出資分(31%)正味譲渡益と残余保持分(49%)正味評価益の合計1億1600万ユーロを含む (c) 2016年4月21日の株主総会で提案(支払いは2016年4月28日)

各事業部門におけるフリーキャッシュフロー(a)推移

(単位：100万ユーロ)



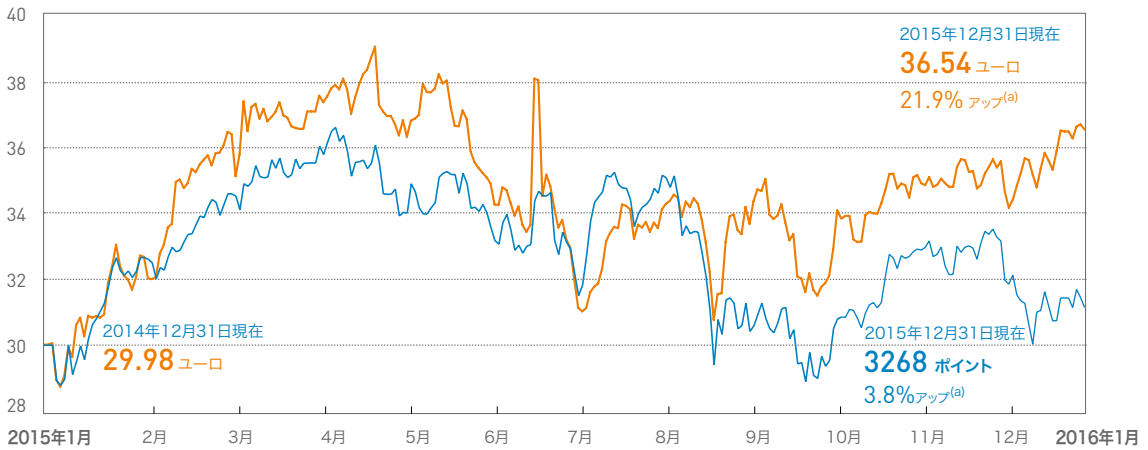
ブイググループには多様な事業部門が存在するおかげで、全体として安定的なキャッシュフロー水準を保っています。2006年-2013年は、景気の変動にもかかわらず、年間平均で約9億ユーロのフリーキャッシュフローを維持しました。しかし、2014年-2015年のグループのキャッシュフロー創出力は比較的低いレベルに留まりました。

(a) フリーキャッシュフローはグロスキャッシュフローから正味金融費用、支払税額、及び正味事業投資を差し引いて算出され、運転資金の増減分は含まれない
(b) 周波数帯購入分を除く

2015年初頭以降の株価推移

終値（単位：ユーロ）

● ブイグ株価 ● ダウユーロ50種株価指数



(a) 2014年12月31日現在との対比



📍 イタリア人建築家レンゾ・ピアノが設計したパレ・ド・ジュスティス（パリ司法宮）

より良い 生活環境の ために

ブイグ・コンストラクション、ブイグ・イモビリエ、コラスの3社が手掛ける建設関連事業では、ブイグは世界的先導企業の地位を享受しています。ブイグの将来展開を支える強みと優位性としては、充実した人的資本、高付加価値の革新的サービス、強力な国際プレゼンス、及び「持続可能な建設」におけるリーダーシップが挙げられます。

2015年度統合キーデータ

総従業員数

10万8867人

総売上高

260億ユーロ

(2%減)

調整前営業利益

8億3100万ユーロ

(1%減)



ドイツ人建築家オーレ・シェーレンが設計した、タイ最大となる高さ314メートルの「MahaNakhon」(マハナコン)タワーを、2016年、バンコクで引き渡し予定 (ブイグ・コンストラクションが受注)

ブイグは土木建築、不動産開発、交通インフラ、エネルギー、各種サービス、営業権などの事業活動を通じて、都市化対策、交通整備、環境保護といった大きな課題に 대응しています。

ビジネス戦略

世界100ヶ国以上で建設関連事業を展開するブイグは、当該セクターの世界的リーダー企業の仲間入りを果たしています。インフラ需要の増加を支援材料として、長期的な成長が見込める分野に足場を築いているのです。顧客に役立つイノベーションと「持続可能な建設」に依拠した、採算の取れる成長を重視することがブイグの事業戦略の要です。

強みと優位性

人的資本

人的資本（ヒューマン・キャピタル）はブイグのまさに財産です。スタッフたちのノウハウ、経験、モチベーションを振り所にすることにより、ブイグは官民の顧客のニーズに適合した対応ができています。

高付加価値サービスを提供

- プロジェクトに係わる全バリューチェーンをフルカバー
資金調達、企画、建設、メンテナンス、運営までを包括的に提案しています。
- 世界に認められたノウハウ
トンネル、橋梁、高層ビルなどの複合プロジェクトに関する高度な技術ノウハウを持っています。
- 「持続可能な建設」で競争優位
建設工事によるカーボンフットプリントや、エンドユーザーのエネルギー費用を減らせるような、革新的なソリューションを提供しています。
- コアビジネスを補完する諸事業
顧客の要望に応えるために、エネルギー網、ファシリティマネジメント^(a)、鉄道などの主要事業も展開しています。

イノベーションによる差別化

エンドユーザーや顧客の新たなニーズにいち早く対応できるように、積極的な研究・イノベーション方針を堅持しています。

国際的プレゼンス

フランス国内で限なく事業展開しているだけでなく、世界の五大洲にも果敢に進出しています。そして、各地に根付いた現地法人の力を結集し、目指す大型プロジェクトの達成に向けて、スタッフを適宜に動員する能力を発揮しています。

大きな適応能力

固有のノウハウを活用しながら、顧客のニーズに合わせてサービス内容を迅速に調整し、市場の動向にうまく対応ができています。

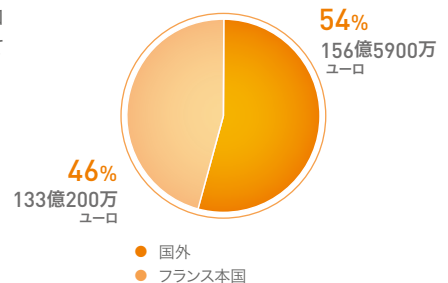
堅固な財務体質

ブイググループの建設関連事業においては、営業面と資金面のリスクをうまくコントロールして安定的にキャッシュフローを生み出し、堅固な財務体質を誇っています。

(a) 事業施設の全般的サービス管理



地域別受注残高



📷 コラス子会社Colas Nord-Picardie所属のMohamed Boudemdani氏（ノール県高速道路A22の工事現場にて）





1970年代以来、久しぶりにパリで建設された高層マンション「Home」(2015年引渡し済み)

2015年度ハイライト

大型受注案件

- シドニーの高速道路トンネル「NorthConnex」
- ドーハの浄水化トンネル
- ロンドンの陽子線治療センター
- スイスのシュリーレンの病院「LimmiViva」
- 米バージニア州、ジョージア州、サウスカロライナ州の一般道路と高速道路改修
- イギリスの高速道路管理・保守多年契約（営業区域4と12）
- イギリスのウェセックス鉄道本線改良
- カイロ地下鉄拡張

新規ビジネス

- ソーラーロード「Wattway」
- 企業向けの共同勤務スペース「Nextdoor」

進行中工事

- ニーム・モンペリエ間LGVバイパス線
- パリのパレ・ド・ジュスティス（パリ司法宮）
- レユニオン島「沿岸新高速道路」の沿岸道路とインターチェンジ
- マルセイユのL2バイパス
- 香港国際空港とテムンムン（屯門区）とを結ぶ海底道路トンネル
- 香港・珠海市（シュカイシ）・澳門（マカオ）を結ぶ橋
- フロリダ州マイアミの「Brickell City Centre」
- カナダのアルバータ州「Highway 63」一部区画
- マレーシアのクラナ・ジャヤのライトレイル線
- チリのサンチャゴ地下鉄3と6路線

引渡済み物件

- パリの国防省
- フィルハーモニー・ド・パリ
- トロントの複合スポーツ施設
- スイスのエコタウン「Eikenøtt」
- リヨンのプラスエネルギー型「Hikari」（ヒカリ）
- オー＝ド＝セーヌ県リュエイユ＝マルメゾンのGreen Office®

主な譲渡と取得

- カナダの電子・機械エンジニアリング企業Gastier社の50%以上株式取得
- ALIS（セーヌ・サルト連絡高速路）社への出資分譲渡

2015年度概況

ブイグループの建設関連事業は、2015年度も引き続き国際的ダイナミズム、競争力、優れた適応力を発揮しました。また、これらの優位性を生かして経営基盤の強化を図り、フランス国内の業況低下に対処することができました。

しっかりした営業活動

建設関連事業全体の2015年末受注残高は、前年比5%増の290億ユーロの高水準に達しました。フランス国内では、公共工事関連の受注が減ったために今一つ業況が振いませんでした。これは、2010年-2011年からのインフラ建設等の超大型プロジェクトが終了したためです。しかし、その半面、国外ヨーロッパ、アジア、北米などの国際事業が躍進を続け、ブイ・コンストラクションとコラスの国外受注残比率は59%を記録しました（前年度は53%）。

ブイ・コンストラクションの受注残高は、前年度比3%増の120億ユーロに上りました。その中には、シドニーの高速道路トンネル「NorthConnex」、ドーハの浄水化トンネル、及び、イギリスの癌治療・外科センターなどの案件が含まれています。この結果、2015年12月末現在の総受注残高は、前年比7%

アップの193億ユーロを確保しており、将来の事業見通しは良好です。

ブイ・イモビリエの住宅予約販売は、前年度比16%増の20億ユーロを記録しました。ピネル法のおかげで、民間投資家たちが国内の住宅市場に戻ってきました。オフィス・商業ビル関連では、環境配慮型「グリーンビル」や即入居可能なターンキー方式に注力する戦略が当たって、4億8700万ユーロの予約販売高を記録しました。2015年12月末時点における総受注残高は26億ユーロとなり、上伸傾向が復活してきました。

コラスが手掛けている国内の道路施工は、2015年度も前年度と同様に低迷しました。政府の補助金カットの影響を受けて、地方自治体の公共投資が激減したからです。これに対して、国外ヨーロッパ、北米などにおけるコラスの国際事業は活況を呈しました。また、傘下企業Colas Railの鉄道関連も大きく伸びました。すなわち、国際事業と鉄道関連が、国内の道路施工分野の不振を大いに補う形になりました。コラスの受注残高は、前年度比2%減の70億ユーロでした。

香港国際空港とテュンムン（屯門区）とを結ぶ海底道路トンネルの工事現場で働くブイ従業員たち



建設関連事業

売上高の地域別内訳





官民パートナーシップのスキームで進められ、2016年1月に引き渡されたヴィシー南西部バイパス（18.6キロ道路区間を含む）

予想通りの数値実績

建設関連事業の当年度総売上高は、前年度比2%減の260億ユーロになりました（連結範囲と為替レート一定の場合6%減）。フランス国内の業況が冴えず、最近受注した多くの案件があまり進捗しなかったことも、やはりマイナス要因になりました。

ただし、売上高が減少したにもかかわらず、調整前営業利益は8億3100万ユーロ、同利益率は3.2%を記録することができました。

建設関連各社の個別の利益率を見ると、ブイグ・コンストラクションが前年度並み、ブイグ・イモビリエが売上減に伴ってダウンしたのに対して、コラスの場合は売上減とは裏腹にアップしました。コラスは、フランス国内の道路市場の落ち込みや、子会社SRD（ダンケルク製油所会社）の損失を、国外における好調な道路工事受注でカバーしました。

他方、2015年度は各社とも必要な適応プランを実施したため、1億3400万ユーロの特別費用を計上しました。この特別費用の中には、ダンケルク製油所の閉鎖に伴う諸経費も含まれています。

なお、建設関連事業は当年度も優れた財務体質を堅持し、2015年12月末時点で、38億ユーロの正味現金を計上しました。



📍 「Rehagreen」再開発方式の典型例となった、ジャンティイ所在「Campus Sanofi Val de Bièvre」（ブイグ・イモビリエが受注）

持続可能な望ましい街づくりに向けて

2015年度のブイグは、インフラ整備や街づくりの分野における、イノベーション先進企業としてのポジションを強化しました。気候変動、天然資源枯渇、生物多様性毀損の3つの複合危機に直面せざるを得ない現代社会の期待に、ブイググループはしっかり応えているのです。

ブイググループが提案するソリューションは、グループ企業同士の協働アプローチの成果です。そして、この協働アプローチは、ターゲットを見定めた産業提携によって強化されています。

改修事業への取り組み

熱エネルギー面の改修事業は大きな可能性を秘めています。ヨーロッパではEUが定めたエネルギー節約目標を達成させるために、2050年までに、1億9000万戸近くの住宅に熱エネルギー面の改修を施す必要があります^(a)。

ブイググループはこの点を踏まえて、しかるべき建物改修のためのノウハウを開発してきました（たとえばブイグ・コンストラクションの「Réavenir」、ブイグ・イモビリエの「Rehagreen」[®]など）。すなわち、建築上の元の特性を十分に尊重し、しかも、工事期間中に住人たちを立ち退かせずに、建物を「パッシブ」^(b)に変えられるノウハウです。

「低炭素」を考慮した建設

ブイグは一連の「低炭素」ソリューションを提案しています。その内容としては、再利用可能エネルギー生産とエネルギー備蓄の統合システム、及び、環境フットプリントが小さく再活用可能な素材の利用を含むものです。ブイグはまた、最適なエネルギー制御をもたらすデジタルソリューションも提案しています。

プラスエネルギー型建物のパイオニアであるブイグ・イモビリエは、2015年度、オー＝ド＝セーヌ県リュエイク＝マルメゾンで、「Green Office」[®]を竣工させました。この大型プロジェクトは、非常に高度なエネルギーパフォーマンスの維持（建築契約で保障）と、居住者の快適生活との両立が可能であることを証明しているのです。

エコタウンの開発

ブイグは提携先とタイアップする形で、持続可能な建設、エネルギー効率、機能ミックス、環境に優しい交通、生物多様性、及び、住民のニーズにあったニューテクノロジーを組み込んだ統合ソリューションを自治体に提案しています。たとえばスイスの「Eikenøtt」や、フロリダ州マイアミの「Brickell City Centre」はその典型例です。

(a) Ademe（環境エネルギー管理庁）のデータによる
(b) エネルギー消費が極端に低い状態

ブイグ・コンストラクション

明日の街のシンボルになるエコタウン「GREENCITY」

チューリヒに生まれた「Greencity」は、スイス初の「Site 2000 watts」^(a)になります。これは、今から2100年までに、「2000ワット社会」（1人当たりの電力消費量を2000ワットに抑制した社会）を実現する目標への一里塚です。このエコタウンのエネルギー需要は、再生可能エネルギーの購入又は現地生産によって、100%まかなわれることとなります。

「Greencity」のコンセプトにおいては、人々の快適な生活の追求が中心テーマになっています。すなわち、社会階層や世代を超えた共生、環境に優しい交通様式、さまざまなレジャー施設、家族で過ごせる施設などが大いに重視されています。

(a) スイスのOFEN（連邦エネルギー局）より認証

ブイグ・イモビリエ

もう一つの働き方のための「NEXTDOOR」

より機敏な働き方の発展を支援する「Nextdoor」は、フレキシブルで和やかな共同勤務スペースを、長期契約の拘束なしに企業に提供することを基本理念にしています。

最高に快適な勤務スペースとなる「Nextdoor」を活用することにより、企業同士の交流が生まれて、協働精神や創造性や融和的雰囲気を育むことができるでしょう。

2015年、オー＝ド＝セーヌ県リュエイク＝マリノールで、最初の「Nextdoor」がスタートしました。今後は、2020年を目途にして、フランス各地にさらに15ヶ所ほど展開していく予定です。



このQRコードを読み取るとブイグの統合アプローチに関する追加情報（動画）を閲覧できます

環境に優しい交通と 都市機能の向上

ソーラーロード「Wattway」により、路上で太陽光を取り込んで再生可能エネルギーを作り出し、公共交通機関、オフィス、住宅などに電力を供給できます。また、「Citybox[®]」により、公共照明網を一層効率的に作動させることが可能です。さらに、「Alizé[®]」により、電気自動車の充電所を最適な形で管理できます。

ブイグループは、傘下企業の Bouygues Travaux Publics社や Colas Rail社を通じて、市街電車などの公共交通機関のインフラ構築と改修に、非常に積極的に取り組んでいます。また、勤労者の通勤時間を減らし、道路混雑を緩和するために、ブイでは2015年度から、フレキシブルで和やかな共同勤務スペース「Nextdoor」を打ち出しました。

都市における自然の尊重

ブイ・コンストラクションとブイ・イモビリエは、「BiodiverCity^(a)」認証の考え方を事業の基盤に据えています。これは、都市における生物多様性を考慮した建設・改修プロジェクトを称揚する初の国際認証です。

ブイグループの複数のプロジェクトがこの認証を受けています。たとえば、クレティユ市「Néo-C」とトゥーロン市「Font-Pré」の2つのエコタウン、ブローニュ＝ビヤンクール市「Cité musicale」（シテ・ミュージカル）

 Bouygues Energies & Services社が、パリの照明・光標識・イルミネーション施設を運営維持



 「BiodiverCity」の認証を得た県立「Cité musicale」（シテ・ミュージカル）の工事現場

シカル）、さらに、ブイ・コンストラクション本社ビル「Challenger」がそうです。

ブイ・コンストラクションはSNB（生物多様性のための国家戦略）の一環として、エコロジー・持続可能開発・エネルギー省から、「engagement reconnu SNB 2015」の認証を授与されました。

建造物のメンテナンス

建物の性能はそのライフサイクル全体で評価されます。そのため、Bouygues Energies & Services社は、建造物のメンテナンス監督ツールと支援サービスを提供しています。それはビル群の運営費のコントロールを保障するものです。

(a) CIBI（国際生物多様性・不動産会議）が発行している認証。CIBIの創立メンバーとしては、Bolloré Logistics社、Caisse des Dépôtsグループ、Gecina社、Les Jardins de Gally社、LPO（鳥類保護連盟）、ブイ・コンストラクション、及びElan社。候補に挙がった不動産プロジェクトの認証評価は、独立した第三者機関によって行われている



追加情報

> www.bouygues.com
> Twitter: @GroupeBouygues

コラス ソーラーロード 「WATTWAY」が誕生

コラスがINES^(a)と提携して5年間研究を続けた結果、世界初のソーラーロード「Wattway」が誕生しました（フランス発のイノベーションとして特許取得）。

道路施工の技術と、太陽光発電の技術とを合体させたことにより、いかなるタイプの車両交通も妨げることなく、既存の道路インフラから再生可能エネルギーを生み出すことが可能になったのです。

2015年10月に初めて一般公開された「Wattway」は、フランスだけでなく世界各国でも、エネルギーミックスにおける、太陽光発電のウェートを高める役割を果たすことになるでしょう。

(a) 「Institut National de l'Énergie Solaire」（フランス国立太陽エネルギー研究所）

 #Wattway



このQRコードを読み取ると「Wattway」に関する追加情報（動画）を閲覧できます



1



2



4



3



5

2015年度注目点

1. カナダ事業

Colas Canada社の5つの子会社が、アルバータ州「Highway 63」高速道路159キロメートル区間の建設・拡張（4車線化）・改修工事に参加しています。これはカナダにおけるコラスの代表的工事案件であり、710万立方メートルの盛土と、78万9000トンの舗装材の使用が見込まれています。

2. エネルギー節約

ブイグ・イモビリエは、約15のプラスエネルギー型「Green Office®」を開発しています。たとえばボルドーでは、2015年5月、金融機関Caisse d'Epargne Aquitaineの新社屋の建設を着工しました。

3. 土木エンジニアリング

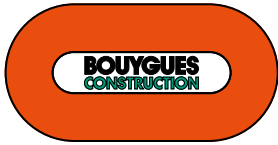
ブイグ・コンストラクション、コラス、アルストムが目下、共同で手掛けている ニーム・モンペリエ間LGVバイパス線の大規模工事では、80キロメートルの線路区間に存在する188の大規模施設（橋やトンネルなど）が既に完成しています。

4. レユニオン島事業

コラスは現在、「沿岸新高速道路」の沿岸道路と、インターチェンジの建設工事を進めています。

5. アメリカ事業

ブイグ・コンストラクションは、フロリダ州マイアミのエコタウン「Brickell City Centre」を建設しています。このエコタウンは、Arquitectonica社と Hugh Dutton Associés社が設計したもので、アメリカのLEED-ND認証を受けています。



ブイグ・コンストラクション (建設とサービスの総合力 と地域アプローチ)

世界80ヶ国に進出しているブイグ・コンストラクションは、顧客のベターライフの構築を支援するために長期的にコミットしています。

公共と民間の建物建設

住宅、学校、大学、病院、ホテル、オフィスビル、スタジアム、空港、刑務所など

公共土木工事

橋梁、トンネル、一般道路、高速道路、鉄道インフラ、港湾インフラ、市街電車、地下鉄など

エネルギーとサービス

エネルギーネットワーク、エネルギーパフォーマンス、再生可能エネルギー、公共照明、デジタルネットワーク、電気工学、機械工学、熱工学、ファシリティマネジメントなど

営業権

交通施設、スポーツ施設、レジャー施設、港湾地区施設の管理運営

従業員数

5万77人

(2015年12月31日現在)



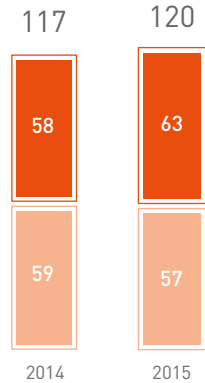
追加情報

> www.bouygues-construction.com

> Twitter : @Bouygues_C

売上高

(単位：億ユーロ)

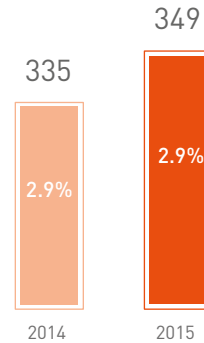


● 国外
● 国内

調整前営業利益

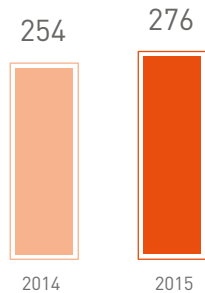
(単位：100万ユーロ)

調整前営業利益率 (%)



当期純利益

(単位：100万ユーロ)



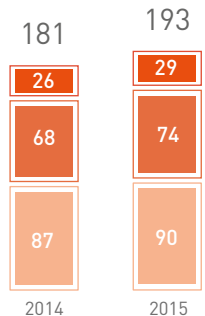
正味現金

(12月末現在 単位：億ユーロ)



受注残高

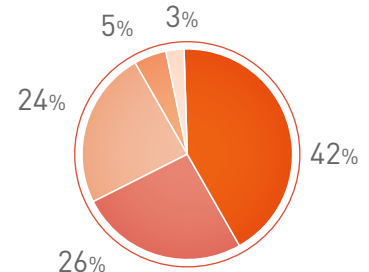
(12月末現在 単位：億ユーロ)



● 5年以上分
● 2-5年分
● 1年未満分

受注残高の地域別比率

(12月末現在)



● フランス国内
● 国外ヨーロッパ
● アジア・中東
● 南北アメリカ
● アフリカ

ブイグ・イモビリエ (不動産開発の 国内リーダー)

ブイグ・イモビリエは都市の開発運営企業として、住宅、オフィスビル、商業施設、「持続可能な街」などの開発プロジェクトを実施しています。当社はフランス国内に35拠点を設置しているほか、ベルギー、ポーランド、モロッコを皮切りに国際展開も図っています。

住宅関連

顧客のニーズや習慣の変化に対応できるように、柔軟にカスタマイズした住宅に注力

ビジネス関連

即入居可能な「ターンキー方式」ビル、既存オフィスビルの環境配慮型再開発「Rehagreen®」、プラスエネルギー型建物「Green Office®」、新しい共同勤務スペース「Nextdoor」

街の整備

住宅、オフィス、商業施設が共存するミックスタウン計画を推進。「UrbanEra®」アプローチにより「持続可能な街」になるミックスタウンで、社会的紐帯、地域エコシステム、及び経済発展を促進する都市機能を統合

従業員数

1889人

(2015年12月31日現在)



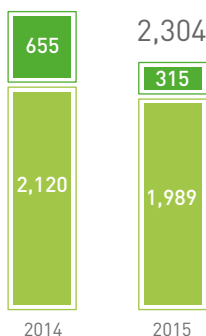
追加情報

> www.bouygues-immobilier.com
> Twitter: @Bouygues_Immo

売上高

(単位: 100万ユーロ)

2,775

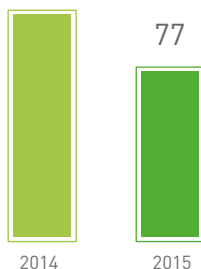


- オフィス商業ビル
- 住宅

当期純利益

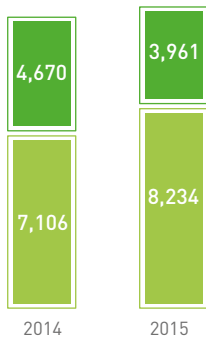
(単位: 100万ユーロ)

102



住宅予約販売数

11,776



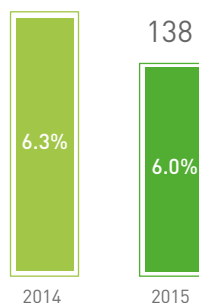
- 区画数
- 戸数

調整前営業利益

(単位: 100万ユーロ)

調整前営業利益率 (%)

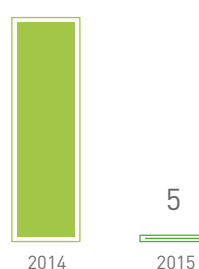
174



正味現金

(12月末現在 単位: 100万ユーロ)

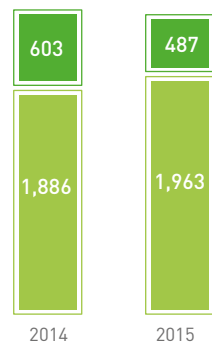
203



予約販売高

(単位: 100万ユーロ)

2,489



- オフィス・商業ビル
- 住宅



コラス 〔交通インフラの ワールドリーダー〕

コラスは交通インフラの建設と保守の先導企業です。世界五大陸50ヶ国以上に拠点を持つ当社は交通、都市化、及び環境の諸課題に応えるため、年間8万件以上の工事を請け負っています。また、コラスはほとんどの業務に係わる資材の生産とリサイクル活動を一体化させています。

道路施工

一般道路、高速道路、滑走路、港湾施設、物流基地、都市整備、レジャー整備、公共交通専用レーン（市街電車やバスなど）、土木施設、建物などの建設と保守。骨材、乳剤、舗装材、生コンクリート、アスファルトなど建設資材の生産・リサイクル・販売

専門業務

鉄道（企画、エンジニアリング、建設、刷新、保守）、防水膜、精製品販売、道路安全標識、ネットワーク

従業員数

5万6901人

(2015年12月31日現在)



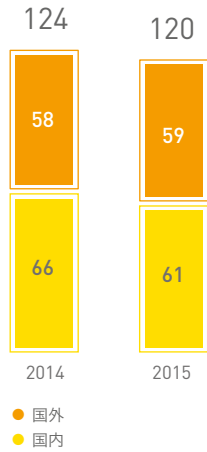
追加情報

> www.colas.com

> Twitter: @GroupeColas

売上高

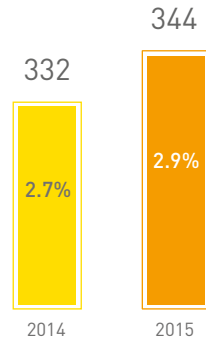
(単位：億ユーロ)



調整前営業利益

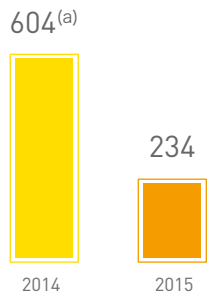
(単位：100万ユーロ)

調整前営業利益率 (%)



当期純利益

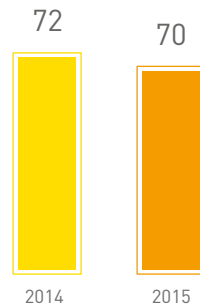
(単位：100万ユーロ)



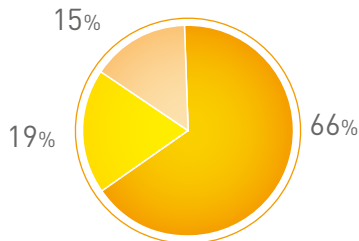
(a) Cofiroute1に対するコラス出資分の正味譲渡益3億8500万ユーロを含む

受注残高

(12月末現在 単位：億ユーロ)

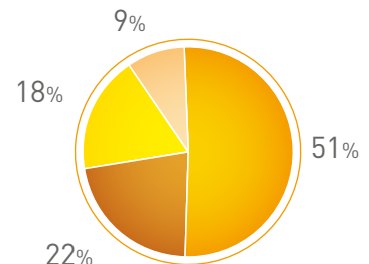


分野別売上比率



- 道路施工
- 専門業務
- 建設資材販売

地域別売上比率



- フランス国内
- 北米
- 国外ヨーロッパ
- その他

テー・エフ・アン 〔仏民放テレビ界の トップグループ〕

総合コミュニケーション企業グループのテー・エフ・アン（TF1）は、世の中に情報を提供し人々を楽しませることを使命と考えています。TF1グループは、あらゆる媒体に適合するコンテンツの制作・放送・配給を業務の中心に据えています。また、ステークホルダーたちとの不断の対話にも取り組んでいます。

2015年度キーデータ

従業員数

2887人

売上高

20億400万ユーロ
(11%減)

調整前営業利益

1億5800万ユーロ
(10%増)





TF1局は2015年度も、各種の番組に多くの視聴者を引き付ける力を発揮して、テレビ視聴率ベスト100番組のうち上位98を独占(写真はテレビシリーズ「Clem」のシーン)





❶ CSA（視聴覚高等評議会）の決定を受けて、2016年、無料地上デジタルテレビ放送局になったLCI



TF1グループは2015年度、4つの無料テレビ局^(a)の相互補完性を全媒体で強化し、ニュース専門放送局LCIを無料放送に移行させ^(b)、さらには、番組制作プロダクションNewen株式の70%取得を発表しました。

4つの無料テレビ局^(a)を相互補完的に運営するTF1グループは、あらゆる媒体に適合するコンテンツを制作・放送・配給しています。また、総合コミュニケーション企業として、テレビショッピング、ライセンス事業、音楽プロダクションなどを含めた、派生ビジネスへの多角化も図ってきました。

ビジネス戦略

世の中に情報を提供し人々を楽しませることを使命とし、次の2点を軸にしたビジネス戦略を推進しています。

- 業界における指導的ポジションを維持
多様なチャンネルとブランドを擁する利点を生かして、あらゆる視聴者に向けた全プラットフォームにおいてリーダーの地位を維持しています。
- 特に2つの分野で成長のチャンスをキャッチ
 - ▷ コンテンツの制作と配給
2015年度は、傘下各局の新たな独自活動を発展させるため、Newen株式の70%取得を発表しました。Newenは、視聴覚コンテンツの制作と配給を国内で行っている有力企業です。
 - ▷ デジタル面の充実
デジタル技術を活用して、セカンドスクリーン、オンデマンドビデオ、キャッチアップテレビなどを含めた、各種コンテンツの利用方式の進化についていくとともに、そこから得られる新たな広告ビジネスの機会を逃さないようにしています。



なお、こうしたビジネス戦略の実行と並行して、経営資源の最適化にも引き続き注意を払っています。

強みと優位性

- 国内オーディオビジュアル界でユニークなポジション
押しも押されぬTF1と4つの無料テレビ局を運営
- テレビ放送とデジタル展開とのシナジー効果
傘下の各局が訴求するブランドイメージが波及
- 広告主にユニークな宣伝チャンスを提供
全プラットフォーム上で、テレビ視聴者とインターネット利用者とを連結
- 国内外において制作から配給に至るまでコンテンツをコントロール
フィクション、スポーツ、バラエティーなどの各種番組でノウハウを発揮
- 優れたイノベーション力と適応力
- 有望なパートナーシップ
European Media Alliance（欧州メディア連合）^(c)に加盟している、ヨーロッパ主要民間メディアが主たる提携先
- 堅固な財務構造
成長と採算に関する野心的な目標を財務面からバックアップ

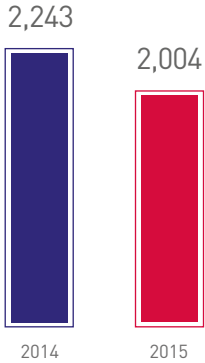
(a) TF1、TMC、NT1、HD1の4局

(b) 2015年12月17日のCSA（視聴覚高等評議会）の決定により、LCIは2016年からTF1の無料放送局に移行

(c) ドイツのProSiebenSat.1がイニシアチブを取って設立された、ヨーロッパ主要メディアのネットワーク機関。その目標は、デジタル分野における投資の地理的範囲と投資チャンスの拡大

売上高

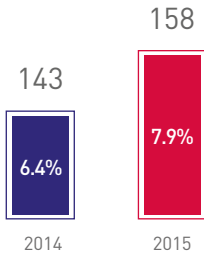
(単位：100万ユーロ)



調整前営業利益

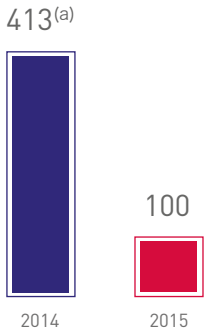
(単位：100万ユーロ)

調整前営業利益率 (%)



当期純利益

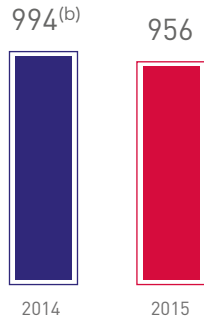
(単位：100万ユーロ)



(a) Eurosport International株持分 (31%) の正味譲渡益と、残余保持分 (49%) 正味再評価益の合計3 億2800万ユーロを含む

無料テレビ4局^(a) 番組関連費

(単位：100万ユーロ)

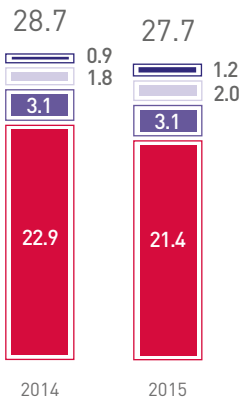


(a) TF1、TMC、NT1、HD1の4局
(b) 2014 FIFAワールドカップの放送に伴う7400万ユーロを含む

無料テレビ局 視聴者数シェア^(a)

(%)

4歳以上個人



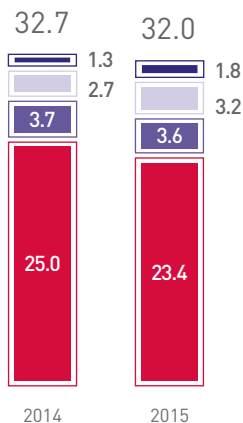
● TF1 ● TMC ● NT1 ● HD1

(a) データはMédiamétrieの調査による年平均値

無料テレビ局 視聴者数シェア^(a)

(%)

購買決定者の50歳未満女性



2015年度ハイライト

2015年度テレビ視聴率ベスト100番組のうち上位98までをTF1局が制作^(a)。
「ラグビーワールドカップ2015」の放送を最大1200万人が視聴^(a)

Newen株式の過半数以上の取得を発表

Eurosportグループの持株 (49%) をDiscovery Communicationsに譲渡

無料地上デジタルテレビ放送局へのLCIの転換をCSA (視聴覚高等評議会) が承認

TF1グループの無料テレビ局^(b)のデジタル放送を「MYTF1」に集約

(a) データはMédiamétrieの調査

(b) TF1、TMC、NT1、HD1の4局

視聴者との対話

ソーシャルネットワーク登録者数



視聴者は様々なソーシャルネットワーク (Facebook、Twitter、Instagramなど) を活用して、各種の番組に参加したり、司会者と交流したりする機会を増やしています。

たとえば、TF1局で生放送された音楽番組「NRJ Music Awards 2015」(590万人が視聴) に対しては、番組のTwitterアカウントに250万以上のツイートが寄せられました。

COP21

気候変動に関する啓蒙番組

2015年度はCOP21の開催にともない、TF1グループのUshuaïa TVが、気候変動問題に関する番組を合計400時間近く放送しました。具体的な内容としては、エネルギー転換、近海と大洋の現況、グリーンタウン (緑の都市) 構想、未来の建築のあり方などでした。時おり遊び心も交えてしっかり学べる番組作りを心掛けたことが奏功して、気候変動問題に対して、多くの視聴者の関心を高めることができました。

また、TF1局とLCI局のニュース番組でも、「持続可能な発展」の課題に関する800以上のテーマを取り上げました。

2015年度概況

2015年度、TF1 グループ全体の視聴者シェアは、「4歳以上個人」の場合は27.7%、「50歳未満女性」の場合は32.0%を記録しました。

揺るがない先導的地位

TF1局単体では、「4歳以上個人」の視聴者シェアが21.4%の高水準を確保しました。TF1局は、全ジャンルの番組を含めて、2015年度視聴率ベスト100のうち上位98までを独占したのです。

一方、TMC、NT1、及びHD1の3局では、「購買決定者の50歳未満女性」の視聴者シェアが合計8.6%に達しました（前年度比0.9%アップ）。とりわけ、TMC局で当年1月に放送されたハンドボール世界選手権大会準決勝は、最大330万人の視聴者を集めました。

TF1グループは当年度、「MYTF1」プラットフォームの新バージョンを立ち上げ、4つの無料テレビ放送と、全てのデジタルコンテンツをそこに集約しました。これにより当グループは、閲覧ビデオ数で世界第5位に位置し、「YouTube」や「Dailymotion」などに迫る勢いを見せています。

採算性の改善

2015年度のTF1グループの売上高は、前年度比11%減の20億400万ユーロでした（連結範囲と為替レート一定の場合2%減）。

無料テレビ放送局の広告収入は、前年度比0.5%ダウンしました。これは、地上デジタルテレビ放送番組の増加が主因となって、広告業界に非常に激しい競争が生じたためでした。

調整前営業利益は、前年度比1500万ユーロ増の1億5800万ユーロを記録しました。当年度はFIFAワールドカップがなく、その他諸費用も抑制できたことがプラス要因になりました。

当期純利益は1億ユーロでした。2014年度の当期純利益は、Eurosport International株持分の譲渡益等の3億2800万ユーロを含んでいたために、例外的に大きくなっていました。

TF1グループの正味現金は、2015年末時点で7億100万ユーロに上りました。この潤沢な手持ち資金のおかげで、デジタルやコンテンツの分野で展開を図るうえで、財務的な余裕を持つことができました。



追加情報

> www.groupe-tf1.fr

> Twitter : @GroupeTF1

冒険リアリティテレビ番組シリーズ「Koh-Lanta」の撮影場面





1



3



2



4

1. 共同参画ネットワーク「Fifty-Fifty」を創設したTF1の女性スタッフたち（Angélique Tessier、Céline Roux、Mari Guyot）
 2. アメリカの推理小説家ハーラン・コーベンの小説を基にしたテレビシリーズ『Une chance de trop』に出演している俳優たち（Lionel Abelanski、Alexandra Lamy、Jean-François Vlerick、Arièle Semenoff）
 3. 当年度のTF1はスポーツイベント関係にも力を入れ、「ラグビーワールドカップ2015」やハンドボール選手権大会決勝を放送
 4. TF1、TMC、NT1、HD1の4局のデジタル放送を「MYTF1」に集約

2015年度注目点

当年度の視聴状況

2015年度視聴率ベスト100フィクションのうち、32までをTF1局の放送作品が占めました^(a)。同局にとってこれは過去最高の快挙でした。これまで進めてきた新規まき直し方針が功を奏して、TF1局は業界で唯一、自社ブランド作品をランキング入りさせることに成功したのです。その中でも、『L'Emprise』（支配）は980万人、『Une chance de trop』は910万人の視聴者を動員しました。



LCIの無料テレビ化

2015年12月17日、CSA（視聴覚高等評議会）はLCIの無料テレビ化を承認しました。LCIは1994年の創立以来、ニュース専門放送のパイオニアとして活動してきましたが、このたび新たな歴史の1ページを開くことになりました。LCIは2016年以降、無料地上デジタルテレビ放送局の仲間入りします。

男女共同参画

2015年、TF1の3人の女性スタッフによって設立された「Fifty-Fifty」は、国内メディア業界初の共同参画ネットワークです。現在130名以上の会員を擁し（うち20%が男性）、TF1グループ内の男女共同参画について皆で考えることを目

的にしています。設立後、フランスのビジネスウーマンのネットワークである「PWN-Paris」（PWN Globalのパリ支部）と提携したことにより、PWN-Parisと共通の構想を発展させるとともに、企業内のあらゆるレベルで、男女スタッフの共同参画を強化することができるようになってきました。

イノベーション

2015年9月、TF1は斬新なIT教育で知られる学校「Epitech」と提携しました。この提携による教育プログラムの目標は、新アイデアの誕生の現場に学生たちを立ち合わせ、彼らの研究プロジェクトの展開を支援することです。

ワールドインデックスのDJSI^(b)

持続可能な発展に関するTF1グループの成果は、2015年度もCSR^(c)に関するDJSIで認知され、「SILVER CLASS（銀）」に選定されました。

(a) データは Médiamétrie の調査

(b) 社会的投資指標の「Dow Jones Sustainability Index」

(c) 「Corporate Social Responsibility」（企業の社会的責任）

通信



ブイグ・テレコム新ショップは2015年度から、カスタマーに手間を取らせない形で、これまで以上になじみやすいデジタル体験を提供(写真はイヴリーヌ県のショッピングセンター「ヴェリジー2」内の店舗)

ブイグ・テレコム 〔顧客のデジタル ライフ支援企業〕

フランスの主要な電気通信事業者であるブイグ・テレコムは、さまざまな利用方式の開発を通じて、全ての人に最高のデジタル体験を味わっていただくことを目指しています。

2015年度キーデータ

従業員数

7947人

売上高

45億500万ユーロ
(2%増)

EBITDA^(a)

7億5200万ユーロ
(8%増)

顧客数

1470万人

(a) 「支払利息・税金・減価償却・償却控除前利益」
(すなわち「調整前営業利益 + 減価償却費等 - 引当金等戻入額」)



📷 ブイグ・テレコムは1470万人の顧客が、モバイルと固定分野の高性能ネットワークを利用



抜本的な構造転換を遂げたブイグ・テレコムは、パワフルな営業力と新たな経済モデルを拠り所にして、長期的な成長路線を再スタートさせています。

ビジネス戦略

ブイグ・テレコムは信頼できる通信事業者として、次の3点をビジネス戦略の基軸に据えながら、カスタマーにデジタル世界を存分に活用してもらえるようにしています。

各種サービスの利用促進による価値創造

優れた4Gネットワークの全国的展開は、業界で差別化を図っていくうえで持続的な競争優位をなしています。2016年1月1日現在、4Gは人口の75%をカバーしています。今後も新たな拠点づくりを推進し、このカバー率を2016年末までに82%、2018年までには99%まで引き上げることを目標にしています。

また、自社が保有する複数の周波数帯を活用してモバイルネットワークを強化しています。たとえば、2つ又は3つの異なる周波数帯を束ねること（キャリアアグリゲーション）により、通信速度が300 Mbit/s近くまで達する、超高速モバイルインターネットを実現させました。

ブイグ・テレコムは、高品質なネットワークと豊富なサービスを武器にして、モバイルインターネットの有望見込みユーザーを魅了し、新たなデジタル利用への案内役を務めています。

固定分野における成長の追求

ADSL^(a)とFTTH^(b)のサービスを非常に魅力的な価格で提供するとともに、これまでなかったような低料金サービスをより多くの家庭に享受してもらえるよう、固定分野（ADSLとFTTHの両方）で独自のインフラ展開を加速させています。

法人向けビジネスと「モノのインターネット」の展開

4Gネットワークのスタート以降、法人向けビジネスは非常に力強い新成長ファクターになっています。固定分野で

斬新なサービスを開発した結果、担当企業Bouygues Telecom Entreprisesの顧客数は大幅な伸びを示しました。一方、新設子会社Objenious（p.33参照）を通じた固有のビジネスサービスを企画することにより、いわゆる「モノのインターネット」^(c)の発展にも貢献しています。

強みと優位性

- **1190万人のモバイルユーザーと、280万人の固定ブロードバンド利用者**
- **優れた品質が広く認知された、高性能モバイルネットワークと固定ネットワーク**
- **広範な周波数帯へのアクセス**
- **«お客様第一» (#NosClientsDabord) というポジショニング**
- **魅力的なモバイル及び固定サービス**
- **最適にパーソナライズされたカスタマー・エクスペリエンス**
- **大きな適応能力**

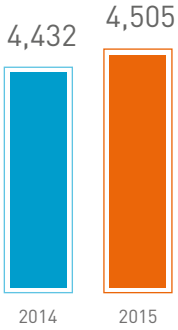
(a) 「Asymmetric Digital Subscriber Line」（非対称デジタル加入線）

(b) 「Fiber To The Home」（光ファイバーを家庭へ）

(c) 「Internet of Things (IoT)」（インターネットを介して相互接続するモノの情報交換を指す）

売上高

(単位：100万ユーロ)

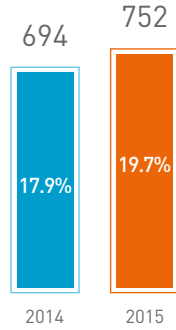


(a) 「支払利息・税金・減価償却・償却控除前利益」 (すなわち「調整前営業利益 + 減価償却費等 - 引当金等戻入額」)
(b) 通信網関連売上高に対するEBITDAの比率

EBITDA^(a)

(単位：100万ユーロ)

EBITDA率^(b) (%)



2015年度ハイライト

「Sensation」サービスの内容をグレードアップ（「Spotifyプレミアム」、「Canal Play Start」、見放題BTV、及び「Gameloft」の4つから選べる特典付き）

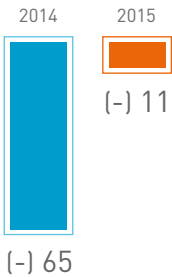
「Bbox Miami」を発売開始

700 MHz周波数帯で5MHzブロックを取得し、モバイルインターネット利用の発展に貢献

多国籍的展開に対応するため、担当企業Bouygues Telecom EntreprisesとTelefonica（スペインの大手通信事業者）との間で、合併会社Telefonica Global Solutions Franceを設立

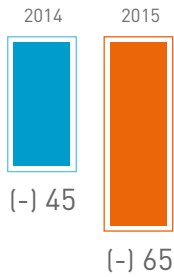
調整前営業利益

(単位：100万ユーロ)



当期純利益

(単位：100万ユーロ)



カスタマー・リレーション

「カスタマー委員会」の設置

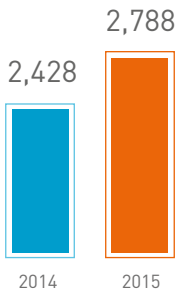
ブイグ・テレコムは当年度、20名ほどの顧客で構成される「カスタマー委員会」を立ち上げました。この委員会は、ブイグ・テレコムのスタッフたちとの意見交換を任務としています。たとえば各種改善点の提案、新規サービスの向上、不具合部分の立て直しなどが、委員会が目指す目標の一部になっています。その活動の具体的な貢献としては、2015年のクリスマスに打ち出した特別サービスキャンペーン^(a)が挙げられます。

「カスタマー委員会」は、当社が掲げる「お客様第一」(#NosClientsDabord) というモットーの成果だと言えます（同委員会のブログはblog.bouyguestelecom.fr）

(a) 6ヶ月間毎週末にデータ使い放題

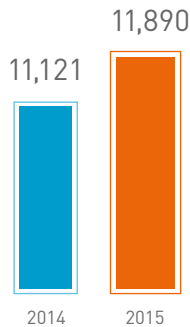
固定ブロードバンドユーザー

(12月末現在 単位：千人)



モバイルユーザー

(12月末現在 単位：千人)



都市機能の向上

モノをつなげるOBJENIOUS

モノ同士が情報交換するためのLoRa (Long Range=長距離) テクノロジーを活用することにより、都市の環境フットプリントを減らす数多くのアプリケーション（ネット接続公共設置物、インテリジェント駐車場など）を、うまく作動させることができるようになります。このLoRaテクノロジーは、将来必ずや世界標準になっていくでしょう。これをいち早く展開するブイグ・テレコムは、ビジネス向けの各種サービスを2016年度中に打ち出していく予定です。



Le réseau 4G
dont vous
pouvez
vraiment profiter.

Découvrez nos forfaits 4G Sensation et B&YOU
bouyguetelecom.fr

2015年11月より、ブイグ・テレコムが開始した新たなブランドキャンペーン

2015年度概況

2015年度のブイグ・テレコムは、本格的な転換プランを実施しながら、モバイルと固定の両方で攻めの戦略をうまく進めました。

良好な営業成績

当年度の特徴としては、引き続き自社の顧客に4G利用をスピーディーに広め、モバイル分野でダイナミックな営業力を取り戻したことでした。

「優れた4Gネットワーク品質」、「内容豊かなサービス提供」、「業界における新たなポジショニング」の3点を武器にして、モバイルインターネット利用の可能性を大いに秘めた新規顧客を獲得するとともに、既存客のチャーンレート (churn rate) ^(a) を低く抑えることができました。

ブイグ・テレコムは2015年末現在、1190万人のモバイルユーザーを確保しました。定額料金プラン利用者総数 (MtoM^(b) 向けを除く) が前年度より54万3000人増えたのです。また、モバイル利用者総数 (MtoM^(b) 向けを除く)

の51%に当たる、510万人の顧客が4Gユーザー^(c)になりました。

固定ブロードバンド分野^(d)では、魅力的な価格のサービスを提供して成長を維持しました。2015年初頭に「Bbox Miami」(月額25.99ユーロ)を発売したことで、2014年度に打ち出した「Bbox ADSL」の販売成績が一層向上する結果になりました。当年度はさらに、自前のネットワークを使ってFTTH^(e)サービスも開始しました。以上の結果、ブイグ・テレコムは固定分野で36万人の新規顧客を獲得しました(固定分野の顧客純増数としては業界上位)。

数値面の改善

2015年度は、良好な販売実績と経済モデル転換の2つがあいまって、数値面の改善がもたらされました。

まず、売上高は45億500万ユーロと、前年度比アップの成長基調を取り戻しました。また、より機敏に好循環を生む経済モデルの採用や、思い切った事業の簡素化が功を奏して、7億5200万ユーロのEBITDA^(f)を記録しました(前年度比5800万ユーロ増)。

- (a) 顧客離脱 (解約) 率
- (b) 機器同士がコンピューターネットワークを通じて直接情報をやり取りし、高度な処理や制御を行うことを意味する「Machine to Machine」
- (c) ARCEP (郵便・電子通信規制機関) の定義により、過去3ヶ月間にわたり4Gを利用した顧客のこと
- (d) 超高速ブロードバンドも含む
- (e) 「Fiber To The Home」(光ファイバーを家庭へ)
- (f) 「支払利息・税金・減価償却・償却除外前利益」(すなわち「調整前営業利益 + 減価償却費等 - 引当金等戻入額」)



追加情報

> www.bouyguetelecom.fr
> Twitter : @Bouyguetelecom



1. 2015年度に新たに周波数帯ブロックを取得したことにより、これまでよりも一層高品質なブロードバンドサービスを提供
 2. 2015年初頭に「Bbox Miami」が誕生 3. «お客様第一»というポジショニングを通じて、カスタマー・エクスペリエンス（顧客体験）をビジネス戦略の要に設置（写真はヴェリジーのブイグ・テレコム販売アドバイザー・Salomé Belili氏）

2015年度注目点

よりパワフルでより快適に

ブイグ・テレコムは2015年、3つの周波数帯を束ねた“増幅型”ブロードバンドの「4G+」を業界で初めて開始しました。このキャリアアグリゲーションの結果、最大300 Mbit/s近くに達する業界最高的高速通信が実現し、モバイルインターネットの使い勝手が格段に高まりました。

「4G+」は目下、シャルトル、リオン、マルセイユ、及びパリ地域の一部で利用可能になっていますが、2016年度中には、フランスの全主要都市にも広げていく予定になっています。

カスタマー・エクスペリエンスの改善

ブイグ・テレコムは本年度、Salesforce社（顧客関係管理ツールの世界的企業）とタイアップして、「オムニカナル」（全経路）型のデジタルプラットフォームを構築しました。顧客関係管理ツールを活用することにより、接触地点がどこであろうとも、顧客経路の流れをスムーズにして関係情報を一元化できます。

他方、ブイグ・テレコムは、カスタマー・エクスペリエンス（顧客体験）をもっとシンプルにするために、店舗ネットワークのリニューアルに乗り出しました。2017年末までには、全ての店舗で新方式が導入されることになっています。

オープンイノベーション

傘下のBouygues Telecom Initiatives (BTI) は設立以来、スタートアップ企業のアクセラレーター（加速役）としてこれまで数多くの案件を検討し、29件の共同開発プロジェクトを実現させ、9件の資本参加を行いました。たとえば、2015年初めに販売開始された「Bbox Miami」には、同社が15%資本参加しているスタートアップ企業のIfeelSmartが開発した、革新的なインターフェースTVが含まれています。BTI社は、インキュベーター、アクセラレーター、ファンドなどの提携者ネットワークと協働し、ソーシャルネットワークやウェブサイト（www.btinitatives.fr）を通じて、自社の活動状況を知らせています。

FTTHの展開

ブイグ・テレコムは当年度もFibre FTTHネットワークの展開を進めました。当年度下半期に自前のFTTHサービスの販売を開始し、650万世帯の加入を目標に掲げ、2015年末までに150万世帯を獲得しました。

75%

ブイグ・テレコムの4Gネットワークは、2016年1月1日現在、フランス本国人口の75%をカバーしています。

アルストム 〔輸送ソリューション の世界企業〕

「持続可能な交通」を推進するアルストムは、鉄道セクター向けのシステム・施設・サービスを企画提案し、業界随一の幅広いソリューションをお届けしています。アルストムは、総合鉄道システムの世界的リーダーの地位を誇っているのです。



2015年6月に開通した
インドのチェンナイ地下鉄

2015年11月2日、アルストムはゼネラル・エレクトリック社（GE）に対して、自社のエネルギー事業（発電と送電）を、約124億ユーロの価格で譲渡する措置を完了させました。3万2000人のスタッフを擁する当社は以後、鉄道輸送事業に全面的に特化していくことになりました。

ブイグは2015年12月31日現在、29.2%のアルストム株式と議決権を保持しています。

鉄道分野の模範企業へ

鉄道市場は、拡大する都市化に牽引されてコンスタントに成長し続けています。2011年-2013年における世界の鉄道市場の規模は、年間1020億ユーロに上ると推定されています。そして、2017年-2019年には、それが1210億ユーロにまで拡大すると予想されています（年平均成長率は2.8%）^(a)。

世界5大陸に進出しているアルストムは、いかなる課題にも対処できるノウハウを持ち、不断のイノベーション能力を誇っています。それゆえ当社は、列車、輸送システム、各種サービス、信号標識の分野で先導的ポジションを得ています。

2020年を展望する野心的な戦略

アルストムは大きな目標に見合ったビジネス戦略を展開しています。すなわち、顧客から信頼される特別パートナーとして、2020年までを見据えて、輸送に関わる諸課題に対処するソリューションを追求しているのです。その具体的な内容としては次の通りです。

● カスタマー志向の事業組織

目下60ヶ国でビジネス展開しているアルストムは、その国際的プレゼンスをさらに強化するとともに、各地域の顧客のニーズに一層的確に答えられるように事業組織を再編しました。

● あらゆる課題へのソリューション

列車、輸送システム、各種サービス、信号標識といった、鉄道輸送の



米GE社から取得したグレインバレー拠点で働くアルストムのスタッフ

全セグメントで優れた力量を発揮しているアルストムは、自社のノウハウを巧みに組み合わせ、総合的なソリューションをカスタマーに提供しています。

● 価値創出のイノベーション

アルストムはイノベーションのおかげで、より優れたソリューションと、所有経費の軽減策をカスタマーに提案できています。イノベーションは、競争力を高め差別化を図るための源泉であり、新たな市場開拓のための手段でもあります。

● 優れた業務遂行力と環境パフォーマンス

顧客満足の最大化を心掛けるアルストムは、契約を実行する際には、仕事のクオリティー、コスト、納期の点で業界随一のレベルを目指しています。優れた業務遂行力の達成は、環境パフォーマンスへのコミットメントと切り離せません。環境への配慮は、業界の強い期待に応えるための要件なのです。

● 多様性尊重と企業家精神に基づくコーポレートカルチャー

各業務チームの中において、共同参画や文化多元主義を含めたあらゆる形の多様性の尊重を促す一方、顧客満足、責任感、迅速対応力の3つを重視する企業家精神を培っています。

当年度業績

第3四半期まで

2015年度開始後9ヶ月間（2015年4月1日-同年12月31日）の受注額は、前年同期の80億ユーロより少ない63億ユーロとなりました。前年度は、南ア

リカで40億ユーロの受注があったために数字が大きくなりました。

当該期間における売上高は、前年同期比8%増の49億ユーロを記録しました（連結範囲と為替レート一定の場合3%増）。すなわち、売上高に対する受注額の比率は1.3倍になりました。

他方、2015年12月31日現在の受注残高は、4年分の売上高を優に上回る287億ユーロに達しました。

(a) データはUNIFE（欧州鉄道産業連合）2014年版報告書

ハイライト

2015年度上半期

- アゼルバイジャンで50両の貨物機関車
- カザフ人用旅客機関車と貨物機関車の25年間保守
- 香港で複数の地下鉄路線の信号システム機能改善（Thales社と共同受注）
- アルジェリアで17両の都市間列車「Coradia Polyvalent」
- パナマで2つ目の統合地下鉄システム

2015年度第3四半期

- イタリアで高速列車「Pendolino」（ペンドリーノ）8車両追加と8年間保守
- スイスで47両のデュアルモード機関車
- ベルギーで1362両のM7型2階建て車両（Bombardier Transport社とのコンソーシアム）

GROUPE BOUYGUES

グループ本社

32 avenue Hoche
F-75378 Paris cedex 08

Tel. : +33 1 44 20 10 00
bouygues.com
Twitter : @GroupeBouygues

TF1 本社

1 quai du Point du jour
F-92656 Boulogne-Billancourt cedex

Tel. : +33 1 41 41 12 34
groupe-tf1.fr
Twitter : @GroupeTF1

BOUYGUES TELECOM 本社

37-39 rue Boissière
F-75116 Paris

Tel. : +33 1 39 26 60 33
corporate.bouyguetelecom.fr
Twitter : @bouyguetelecom

BOUYGUES CONSTRUCTION

本社

Challenger
1 avenue Eugène Freyssinet - Guyancourt
F-78065 Saint-Quentin-en-Yvelines cedex

Tel. : +33 1 30 60 33 00
bouygues-construction.com
Twitter : @Bouygues_C

BOUYGUES IMMOBILIER 本社

3 boulevard Gallieni
F-92445 Issy-les-Moulineaux cedex

Tel. : +33 1 55 38 25 25
bouygues-immobilier-corporate.com
Twitter : @Bouygues_Immo

COLAS 本社

7 place René Clair
F-92653 Boulogne-Billancourt cedex

Tel. : +33 1 47 61 75 00
colas.com
Twitter : @GroupeColas

BOUYGUES



ブイググループのインターネットサイトとイントラネットサイト上で
「2015年度事業概要」のインタラクティブ版を閲覧できます
(iOSとアンドロイドのタブレットも対応可能)

